KSK まちの仲間

第11号
発行日　1995年4月26日
編集人　横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家内
TEL 045(623)5318 FAX 045(623)5319

昭和51年12月22日第3種郵便物認可
KSK増刊通巻1199（毎月4回5・15・20・25日発行）

街頭カンパにて

横浜市グループホーム連絡会
会長　室津　滋樹

「人の噂も七五日」とは良くいったもので、阪神・淡路をおそった大震災から三カ月経った現在、大震災の事はすっかり忘れ去られたようだ。テレビも新聞も今は毎日毎日サリンとオウムでうめつくされている。人が集ればオウムの話題で盛り上がり、地震の事が話題になることはなくなってしまった。三カ月後には何が話題になっているのだろう。

グループホーム連絡会の入居者部会が街頭カンパを行ったのが地震の日からほぼ三カ月たった四月一五日。オウムがらみで何かおきるという噂の日であった。警戒が厳しくカンパができないのではないかとか、人出が少ないのではないかと心配しながらのカンパだったが無事終了した。たまたま通りかかった人たちがいろいろと話しかけてくださり、ちょっとした街角意見交換会になった。

まずは「お前らオウムじゃないのか」という非難の声。自分たちと様子が異なる障害者の集団をみると皆オウムに見え、警戒するのだろうか。警戒は容易に攻撃に転化する。これは大変恐ろしいことだ。

また、神戸の長田区で被災して横浜の親戚の家に避難しているという方が、兵庫の事が書いてあるカンパのチラシを見て「本当に関東の人は冷たい」と話しかけてきた。自分の家は潰れ、先の見通しもたたない状態なのに、テレビでは地震は過去の事となりオウムのことばかり報道している。神戸では何も解決していないのに。横浜で喫茶店に三十分もいると出てけといわれるし、もうこちらにいるのがいやになったという。長田区は今回の震災で非常に大きな被害を受けた地域であるが、地域で助けあい、地域のつながりが強いことで話題になった地域である。「横浜の地で神戸のような地震が起こったら、助けあいが弱いからあんなもんじゃない。もっとたくさんの人が被害を受けるよ。」という。きっとそうだろうなとうなずかざるをえない。　関東大震災を経験したという八十才位の男性は「関東大震災では食料がある所を暴徒化した被災者が襲ったり、朝鮮人の虐殺があった」と話してくださった。「今の教育の仕方では、震災があればまた虐殺が起きる」と心配されていた。

一つの事が起きると日本中がその事に熱中し、次の事が起きると忘れてしまう。皆が同じことを話題にし仲間外れにされることを恐れる。そんな今の社会をみていると、何かパニック状態になった時、噂やデマを簡単に信じ、恐ろしい事件がおきてしまうのではないかと不安になる。丈夫な建物を建てたり、防災用品を備えるだけでは地震への備えになりそうもない。

兵庫・淡路地震に思う

障害者の自立と文化を拓く会

会長　横田　弘

兵庫・淡路地震から、もう三カ月が過ぎました。この三カ月の間被害を受けた仲間の暮らしを考えると、何とも言えず重い気持ちになります。

確かに神戸・西宮の仲間たちは「障害者が地域の中にいる事が大事なんや。」という思いを現実の中で位置付けていく努力を行っています。今、横浜の地で神戸・西宮と同じような状況が起きた場合、私たちがあそこまで頑張り切れるだろうかという気持ちもしますが、そこまで障害者自身が頑張らなければ私たちの存在が地域の中に位置づけられないところに日本の貧しい「福祉」があることもまちがいのない事実でしょう。

私が神戸・西宮の地震を知ったのは一月十七日、朝八時のテレビでした。次々に写し出される風景を見て「神戸の仲間たち、大丈夫だろうか。」という思いが強く、慌てて西宮の仲間に電話を掛けたのですが、通じません。まあ考えてみれば当たり前なのですが、電話が通じない事で一層私の不安は強くなりました。神戸・西宮には私が知っている仲間だけで十五名以上いるのです。「全員無事だろうか、誰かが怪我をしているのではないだろうか。」そんな思いを抱いたまま二日間を過ごした一月十九日の夕方、茨城県に住む仲間から電話で「西宮の仲間の女性が死んだ。」という知らせを受けたのです。強い衝撃を受けたのは事実ですが、反面「やはりそうか。」と妙に納得させられたような気もします。

地震から三日目、テレビ、新聞等から知らされる厳しい状況の中で、障害者が全員無事で生きられるはずがないのです。恐らく相当数の仲間が犠牲になったのではないかと考えると、いてもたってもいられない思いでした。かといって歩けない私がその時点で現場へ行ったとしてもどうすることもできないでしょう。仕方なくグループホーム「下宿屋」の職員で、長い間関西の障害者とつきあいのある甲方裕之君に「ともかく現場を見てきて」とお願いして神戸に行ってもらいました。

帰ってきた甲方君の話から仲間の厳しい状況が詳しく語られ、私としては「どうしても現場に行きたい、仲間に言葉をかけたい。」との思いは強まるばかりです。そんな私の思いがようやく実現でき、神戸・西宮に向かったのは地震から十九日目の二月五日でした。

途中、大阪市東成区に作られた「障害者救援本部」（ここの電話やファックスによる情報ネットは、どれだけ障害者にとって有効だったか計り知れません。）に立ち寄って今後の救援についての取り組みを相談してから、大阪の障害者や神戸から避難してきた障害者、ボランティア等で行っている大阪難波駅での募金活動に参加しました。

懐かしい顔がいました。神戸で自立生活を送っている、ちょうど地震が起きたときには介助者がなく、どうしようもない状況の所に御近所の電気屋さんが駆け付けて救助され、そのまま三日間も電気屋さんの介助を受けて生活をした後、大阪に来たというS君、御両親を失いながら、どうにか自分だけは助かって大阪に避難してきたQ君、その他、二、三名の顔見知りを見ているだけで「ここへ来てよかった。」と思いました。

西宮の仲間たちの避難所に当てられた西宮市教育文化センターに着いたのは夜の八時過ぎでしょうか。西宮北口駅から教育文化センターまではボランティアの車に乗せてもらったのですが、駅か

ら教育文化センターにいく間、周囲が真っ暗なのです。商店の明かりはもちろん、街灯一つともっていません。丁度敗戦後の焼け跡の夜を思わせる暗さでした。

教育文化センターの一室には家を失った仲間たちが四、五人、以前から生活に関わっていた健全者やボランティアたちと共に避難生活を行っていました。

彼等の話を聞くと、初めのうちは警察署に避難して生活していたのですが、次々に仲間が集まって、ここの教育文化センターに移ってきたのだそうです。ここでも初めは「二階へ行ってくれ」と言われたそうですが、「どうやって電動車椅子で二階へ行けるんや、障害者の生活をどない考えとるねん。」という仲間の一喝で教育文化センターの事務室が避難場所に当てられたそうです。

「障害者は邪魔だからなるたけ目立たないほうに」という社会の考え方が、こういう場合にもいかされるのです。いや、むしろ非常の場合だからこそ「障害者排除」がまかり通るのです。神戸・西宮の在宅障害者（本当は在宅障害者なんていう言葉はキライなのですが）は「町にいては危険だ」「介助が充分にできない」という理由だけで施設へ送り込まれるケースが非常に多いのです。「今に神戸、西宮から障害者が消えてしまうんやないやろか。」仲間の一人が真剣に心配していました。

それだけではありません。避難生活を送っている仲間たちにも色々な形で抑圧が加えられています。日常の生活環境とは異なった避難生活を行えば、知的障害者、精神障害者の仲間たちの中には厳しい状況を示す人たちもいます。それを周囲の人たちは「迷惑だ」と感じるのです。何時壊れるかわからない自宅に戻らなければならない仲間たちや家族、或いは心ならずも仲間を施設に送らなければならない家族を回りの社会は「当たり前だ」と言うのでしょうか。

神戸・西宮の福祉事務所から提示された生活保護の住宅扶助の打ち切り、或いは生活保護そのものの打ち切り、これは平素行政が口にする「障害者の完全参加と平等」がいかにいい加減な物か、欺瞞に満ちた物か、もう一度私たち自身とらえ直すべきだと思います。

そうした周囲からの厳しい抑圧の中で、神戸、西宮の仲間たちは頑張っています。やっと半分だけ残った作業所を利用したパン作り、地域の老人や一人暮らしの障害者に給食サービス、入浴サービスを行っている障害者グループやボランティアや私たちの仲間は地域の中で生きるために、地域の中で生き抜くために、懸命に周りの人たちとの関係作りを行おうとしているのです。

こうした仲間たちの努力が地域で生き抜くための基盤となることを願うと同時に、私たち横浜に住む障害者自身が今、地域の中でどう生きたらいいか、障害者としてしっかり自分の位置を確かめながら、周囲の人々との関係性をどうやってひろげていったらいいか、深めていったらいいか、真剣に考えなければならないときだと思います。

最後に神戸・西宮の仲間たちの一人が言っていた「こういう時だからこそ、障害者が地域の中で生きなければならないんだ。」と言う言葉を書いて、私の感想を終わりたいと思います。

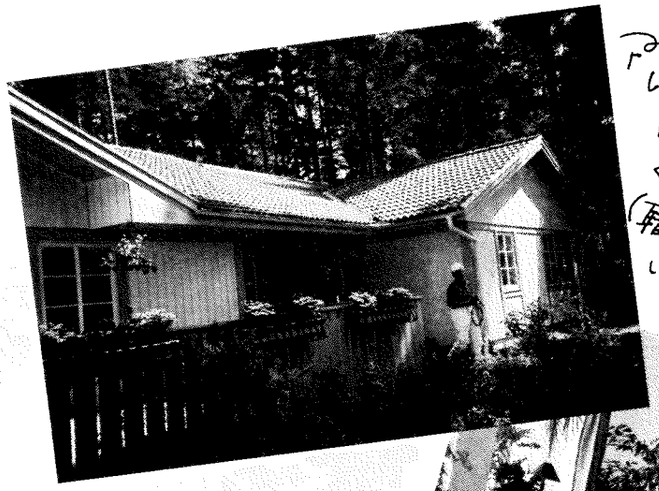
あいち県コロニー
発達障害研究所 みたゆう

スウェーデンのグループホーム

―その1―

スウェーデンでは、１９８５年に知的障害者の援護法が改正され、施設をなくすことが決まりました。それを受けて、スウェーデン南部に位置するスカーラボルイ県は、いちはやくすべての施設をなくし、知的障害をもつ人はみんな地域で暮らすのがあたりまえになりました。地域での生活を支援するためにグループホームもたくさんできました。そのごく一部を２度にわけてご紹介します

←このひとのように車いすが必要な人も、グループホームでたのしく生活してます。このひとは、皮のイスやソファーが大好きなので、みーんな皮製です。このようにみんなグループホームに入るとき、好きな家具をそろえられます。だから同じ大きさのへやでも、住んでいるひとの『個性』がでてるよ。



「いらっしゃーい！」と笑顔でむかえてくれた職員さん。（職員は少ないときでもろ、4人います。（ぜんぶで15人！））

この裏にはひとりひとり大きなバルコニーがあるよ。たまに、かわいい鹿（しか）もあそびにくるのよ！

みんなでおしゃべりするのが大好きなんだって

5人でくらすホームが多いです。ほとんど男女いっしょです。ごはんは、ひとりで食べたりみんなで…も。

＊ひとり分の広さは５０m²くらいかな。ひとりにドアは２つ。外につながるじぶんだけのと、みんなで使う共通のドア。

『ぼくだけのトイレと台所があるんだよ！』『好きなときに好きなものを食べてもいいんだよ。』『ぼくのことはぼくが決めるのさ。』

・・・・これらは施設をでて、グループホームでくらしはじめた人たちのことばです。安心（あんしん）してすめると、みんなすこしづつ、自分なりに生活を楽しむようになっていったのです。（施設からでた人➡300人）

Welcome to Skaraborg!!

スカーラボルイへようこそ!!

スカーラボルイではグループホームごとではなく、障害をもったひとり1人にお金がつくので、とっても運営がやりやすいのです。ひとりぐらしの人もたくさんいます。いろんな住むところが自由に、いつでもえらべるので、快適にくらせるのです。

つぎは重度の障害をもつひとや自閉症、問題行動をもつ人はどうなったか、です！！

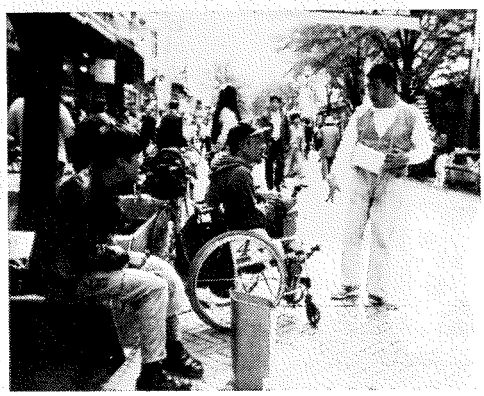
忘れないで！ 神戸の障害者のことを…

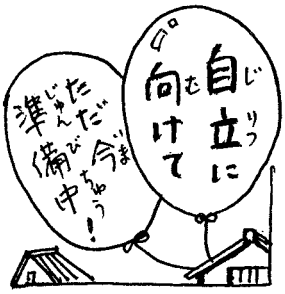
－入居者部会の募金活動－

“阪神大震災で大きな被害を受けた障害者の作業所やグループホームを救援するために、自分達に何ができるだろうか。”　3月の入居者部会で話し合った結果、街頭での募金活動をすることに決まりました。

4月15日土曜日の午後、横浜の繁華街　伊勢佐木町商店街で募金を行ないました。入居者と介助者合せて32名。マイクで懸命に呼びかける人、馴れぬ手つきでパンフレットを配る人、よく通る声で「おねがいしまーす。」と叫ぶ人、みんなそれぞれの持ち味を生かして大活躍。2時間で10万円以上集まりました。

神戸・西宮の作業所やグループホームが早く再興されることを願っています。





横浜市障害者地域作業所連絡会
研修部　北川道子

市作連研修部では〝作業所利用者がもっとグループホームについて知る機会を作ろう〟と、グループホーム連絡会と合同で研修会を企画しました。

作業所利用者と職員、グループホーム入居者と職員など総勢二十二名のスタッフが集まり、まずはスタッフ自身の勉強会からスタート。その後研修会の資料となるスライドとハンドブックの製作に入り、スタッフもふた手に分かれて急ピッチで作業を進めて来ました。

スライドでは作業所に通っているグループホーム入居者を代表して、友の家の本多文弘さんとふれあい生活の家の原田美恵子さんにモデルをお願いし、お二人の一日を追ってみました。またハンドブックは絵と文を駆使（苦使？）し、わかり易いことをモットーに試行錯誤しながら何とか仕上げの段階に入っています。

今年度はいよいよ研修会が開かれます。横浜市を5ブロックに分けました。各ブロックの研修会でその地域のグループホームの方々にお話しを伺う事なども考えています。

この研修会を通して作業所利用者の方々がグループホームについて知り、また自立について考えるきっかけとなることをねがって、全力投球で準備中です。

講演会

スウェーデンのグループホーム

四月十八日研修部主催の講演会が開かれました。講師は愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所の三田優子さん。昨年夏に滞在されたスウェーデンのスカーラボルイイ県の話でした。六年間で県内の全ての施設をやめ、本人の意志を最優先にして最重度の人もグループホームで暮すようになったという驚くべき内容でした。

（前頁の三田さんの報告記事参照）

グループホームと病院としせつでのせいかつ

ぼくはH5年の9月まで病院にいました。
病院は時間がきまっていて、その時間におふろにはいったり、作業をしたり、レクをしたりしていました。
しせつもやはり病院とおなじです。
ぼくはH4年6月にグループホーム今人にきました。
そしてきたときにここにすめたらいいなとおもいました。
それから病院とグループホームをかよって、H5年9月16日、クループホーム今人に入居しました。
いままで病院にいたときとちがって、自由がききます。
自分のすきなこともできます。
病院とかしせつは、それがなかったのです。
グループホーム今人にはいってから、りょこうも1人でいけるようになりました。
年に1回グループホーム今人のみんなとスキーにいきます。
ふだんグループホームにいるときは、レーザーディスクでカラオケをしたり、CDをきいたり、たまに夜にビールをのむことがあります。
ひるまはたんまちかつどうホーム内のわかば工芸にかよっています。

グループホーム今人
市川 友之

（カットは江原 隆さん）

入居者部会 独自企画行なわる！！

入居者部会だけできめた食事会とカラオケ大会が行なわれました。食事会は中華街、担当は神宮さんと市川さん。カラオケ大会は和田町のビックエコー、小泉さん担当。
食事会を担当した神宮さん（下宿屋）に西岡がインタビューしました。

西岡　食事会の感想は？
神宮　マイクを早くまわせばもっと楽しかった。
西岡　初めて食事会の係りをやってどうでしたか？
神宮　僕はお店を見て回るのが好きなので楽しかった。
西岡　来年はどういうことをやりたいですか？
神宮　食事会ならまかせて！カラオケは声が出ないからできないけれど、食事会でお店をさがしたりはできるから……
西岡　他には何をやりたい？
神宮　大きなイベントの受付け。会計とかやってみたい……となりに西岡さんがいると最高！司会とか進行はキライ！（私も）
西岡　他に言いたいことは？
神宮　好きなところにすわれるようにしたのは良かった。

◇入居者部会の感想から◇

協力会員募集！

まちの中でくらしている障害者の姿や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるためにご支援をお願いいたします。

会費（年）1口 2000円

振替…00280-7-73608
横浜市グループホーム連絡会

☆協力会員になっていただいた方には機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を！

グループホーム運営支援基金のためにみなさまのお手元でねむっている未使用のテレフォンカード，オレンジカード，ビール券，商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会
事務局
〒231 横浜市中区本牧満坂10
本牧生活の家 045-623-5318

新年度の協力会費振り込みお願いいたします

阪神大震災にあった障害者の生活を支援するために募金を引続きおこなっています。振替は同上。通信欄に「阪神大震災カンパ」と明記してください。

ありがとうございました　（'94-12-18～'95-4-30）（敬称略）

寄付　玉井君江　藤尾孝枝

テレフォンカード他　牧篤子　松田鉄蔵　加藤宏一　早川美佐
沼尾雅徳　市原かね子　桑原玲子　腰越恵　岩崎伸代
前田ハルミ　畑中武史　已波重雄　上野敬子　おおとり園
川上照子　森美代子　藤尾孝枝　滝沢久美子　室津茂美

協力会員　前田ハルミ　川島京子　植田慶子　小森智子
榛村公子　青木千賀子　的馬恵美子　成田すみれ　視覚障害者の未来を創る会
井上雅人　加藤欽子　木村委美
加藤文子　森美代子　福田瑤子
小沢洋子　愛知県コロニー社会福祉研究部
飯川輝子　内山光子　早川康弘・美佐

編集後記　入居者部会が活発になって来ました。今年度から7頁目を入居者がつくるページとし，西岡さんが担当しています。

発行人　神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会
横浜市港北区鳥山町1752
横浜ラポール3F
編集人　横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家
TEL 045(623)5318
FAX 045(623)5319
郵便振込番号 00280-7-73608
名称　横浜市グループホーム連絡会
編集責任者　室津　滋樹
定　価　100円